

無理のない省エネ節約のヒント

出典：家庭でできる省エネ（資源エネルギー庁）

地球温暖化にストップをかけるためには、一人ひとりが問題意識を持ち、省エネを実行することが大切です。一人では効果が少ないように思えますが、全世帯で省エネすれば、大きな成果が得られます。ここでは、家庭で取り組むことができる省エネの方法をご紹介します。

工夫すること	省エネの効果	CO ₂ 削減量 (kg-CO ₂ /年)	節約金額 (円)
■エアコン			
冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で室内温度を上げる	電気を 30.24kWh 節約	14.8	約 940
冬の暖房時の室温は 20℃を目安に	電気を 53.08kWh 節約	25.9	約 1,650
フィルターを月に 1 回か 2 回清掃	電気を 31.95kWh 節約	15.6	約 990
■石油ファンヒーター			
室温は 20℃を目安に	灯油を 10.22ℓ 節約	25.4	約 880
必要な時だけつける	電気を 3.89kWh、灯油を 15.91ℓ 節約	41.5	約 1,470 円
■電気カーペット			
広さに合った大きさを	電気を 89.91kWh 節約	43.9	約 2,790 円
設定温度は低めに	電気を 185.97kWh 節約	90.8	約 5,770 円
■電気こたつ			
こたつ布団に、上掛と敷布団をあわせて使う	電気を 32.48kWh 節約	15.9	約 1,010 円
設定温度は低めに	電気を 48.95kWh 節約	23.9	約 1,520 円
■冷蔵庫			
ものを詰め込みすぎない	電気を 43.84kWh 節約	21.4	約 1,360 円
設定温度は適切に	電気を 61.72kWh 節約	30.1	約 1,910 円
壁から適切な間隔で設置	電気を 45.08kWh 節約	22.0	約 1,400 円
■ガス給湯機			
食器を洗うときは低温に設定	ガスを 8.8 m ³ 節約	19.7	約 1,430 円
■電気ポット			
長時間使用しないときはプラグを抜く	電気を 107.45kWh 節約	52.4	約 3,330 円
■洗濯機・衣類乾燥機			
洗濯物はまとめて洗いを	電気を 5.88kWh 節約、水道水を 16.75 m ³ 節約	2.9	約 4,510 円
まとめて乾燥し、回数を減らす	電気を 41.98kWh 節約	20.5	約 1,300 円
自然乾燥を併用する	電気を 394.57kWh 節約	192.6	約 12,230 円
■風呂給湯器			
入浴は間隔をあけずに	ガスを 38.2 m ³ 節約	85.7	約 6,190 円
シャワーは不必要に流したままにしない	ガスを 12.78 m ³ 、水道水を 4.38 m ³ 節約	28.7	約 3,210 円
■自動車			
ふんわりアクセル「e スタート」	ガソリンを 83.57ℓ 節約	194.0	約 11,950 円
加減速の少ない運転	ガソリンを 29.29ℓ 節約	68.0	約 4,190 円
早めのアクセルオフ	ガソリンを 18.09ℓ 節約	42.0	約 2,590 円
アイドリングストップ	ガソリンを 17.33ℓ 節約	40.2	約 2,480 円

この計画に関する
お問い合わせ先

嵐山町役場 環境課 電話 0493-62-0719(直通) FAX 0493-62-0713
嵐山町公式ホームページ <https://www.town.ranzan.saitama.jp/>

第 2 次嵐山町環境基本計画

嵐山町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

計画期間：令和 6 年度(2024)～令和 15 年度(2033) 【概要版】

嵐山町の良好な環境を守り、次世代に継承することを目的として『第 2 次嵐山町環境基本計画・嵐山町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）』を策定しました。

1 計画の趣旨

☞ 計画第 1 章

美しい景観と自然環境を守り、次世代に引き継いでいくための計画です。

●計画の背景と目的

嵐山町では、緑地や里山の保全を図り、人と自然との共生を重視した町づくりを目指し、平成 26 年（2014）3 月に「嵐山町環境基本計画兼ストップ温暖化地域推進計画」（以下、「第 1 次計画」という。）を策定し、環境保全のための様々な取組を進めてきました。

第 1 次計画の策定から 10 年が経過し、特に地球温暖化問題に対しては国際的に取組を加速させる必要が生じるなど、環境を取り巻く状況は大きく変化しています。そのため、このたび第 1 次計画を見直し、今後 10 年間の環境施策の方向性を示す「第 2 次嵐山町環境基本計画・嵐山町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」（以下、「本計画」という。）を策定しました。



都幾川桜堤（（一社）嵐山町観光協会）

2 嵐山町の環境が抱える課題

☞ 計画第 2 章

プラスチックごみ問題や食品ロスなど、新たな環境問題に取り組む必要があります。

●嵐山町の良さを守り育む

嵐山渓谷に代表される清流や豊かな田園・里山などの嵐山町の財産を守り続けるとともに、生物多様性に代表される環境の質を高めるための取組が必要です。

●新たな環境問題への対応

深刻化する地球温暖化問題のほか、プラスチックごみによる海洋汚染や食品ロスなど、新たに注目されている環境問題に積極的に取り組む必要があります。

●環境保全の担い手確保

今後、人口減少とともにコミュニティの活力低下が懸念される中、これまで以上に多くの人々が環境保全に取り組む必要があり、担い手となる必要があります。

3 望ましい環境像と基本目標

☞ 計画第 3 章

将来の姿を「望ましい環境像」とし、実現に向けた 5 つの基本目標を設定しました。

■望ましい環境像

緑と清流 オオムラサキが舞う
人も自然も豊かなまち らんざん

■基本目標

1. オオムラサキ舞う緑と清流を守るまち
2. 安心して心豊かに暮らせるまち
3. ずっと住みたい誇れるまち
4. カーボンニュートラルをめざすまち
5. みんなで学び行動するまち





2030年までに2013年度比46%の削減を目指します

● 嵐山町の温室効果ガス排出量

嵐山町全域から排出される温室効果ガスは令和2年度(2020)時点で約15万t-CO₂であり、その内訳は産業部門が最も多く、全体の半数以上の約55%を占めています。次に運輸部門が約18%、家庭部門が約14%でした。

● 温室効果ガス排出削減目標

嵐山町では、国及び県の目標に合わせて、**2030年までに2013年度比46%削減**を目標とします。

この場合、2030年の排出量は約9.9万t-CO₂となります。今後、追加の対策等を講じない場合、人口減少等の活動量低下によって、温室効果ガスは2030年までに約25%の減少が見込まれています(BAU=現状すう勢)。そこからさらに約3.9万t-CO₂を削減し、目標の達成を目指します。

● 目標達成のための町(行政)の取組

1. 省エネルギーの取組

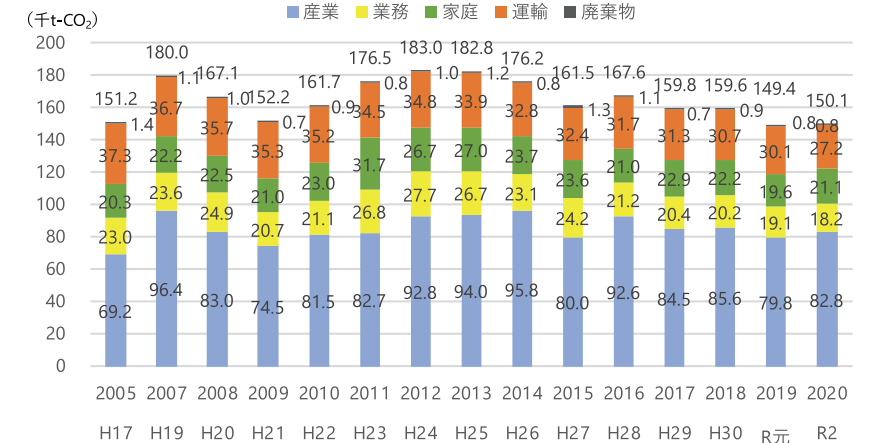
- ①省エネルギー機器・設備の導入支援
 - 家庭用燃料電池システム(エネファーム)、電気自動車等充電設備(V2H)を設置する町民への補助制度等、導入を支援します。
- ②公共施設の節電対策
 - 公共施設における照明の間引きやノー残業デーの実施、冷暖房使用の管理等により節電します。
 - LED等の機器・設備転換による省エネルギー化を推進します。
- ③エコライフ推進の普及啓発
 - NPO 法人環境ネットワーク埼玉が実施している家庭向けの「うちエコ診断」や埼玉県が実施している事業者向けの「埼玉県省エネ診断事業」等の周知を行い、省エネルギーに取り組む世帯の増加を図ります。

2. 再生可能エネルギーの活用

- ①太陽光発電・太陽熱利用の適切な推進
 - 小中学校や公共施設等において、太陽光発電システムや太陽熱利用システムを導入します。
 - 住宅用太陽光発電システムを設置する町民に補助金を交付する等、積極的な支援を行います。
 - 町民・事業者が太陽光発電システムや太陽熱利用システムの導入を検討できるよう、情報提供を行います。
 - 環境と調和した太陽光発電事業を推進します。
- ②小水力発電等の活用
 - 小水力発電等を公共施設に設置する等、再生可能エネルギーの利用を推進します。
 - 小水力発電等の再生可能エネルギーの利用について、町民・事業者への普及啓発を行います。

3. 交通

- ①エコドライブの推進
 - 公用車の利用時には、エコドライブの実施を徹底します。
 - 町民や事業者に対し、エコドライブに関する普及啓発をします。
- ②公共交通施策の推進
 - 広域路線バスの運行継続を支援するとともに、利用促進を行います。
 - デマンド交通の運行を検討する等、公共交通を総合的に見直します。
- ③エコライフ推進の普及啓発
 - 公用車の入替時に、積極的に電動車(次世代自動車)を導入します。
 - 町民・事業者が、自動車の買替時に電動車(次世代自動車)の購入を検討できるよう、積極的に情報提供をします。
 - 電動車(次世代自動車)の普及促進を図るため、充電インフラ等の整備を行います。



嵐山町の温室効果ガス排出量の推移(自治体排出量カルテ・環境省)

